

Sustainable Report No.001

式年遷宮の 常若(とこわか)思想に学ぶ

— 地域循環と知足の経済成長 —



サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 現状認識

- 持続できない経済成長は行き詰り、**働きがいのある人間らしい仕事”ディーセントワーク”も減少**する。
- 自然分解されないプラスチックごみは海洋生物を死滅に向かわせ、循環しない産業を象徴する。
- **ごみの最終処分場の残余年数はあと20年**と予測されるも、新設許可はほぼ取得できないといわれる。
- ごみが増える一方で、食糧が不足して世界に行き渡らなくなる。人口は益々増加をたどり、一人々の生活の質は低下、**より格差が生まれて飢えに苦しむ人は増えつづける**。

■ あと20年でごみが溢れる最終処分場

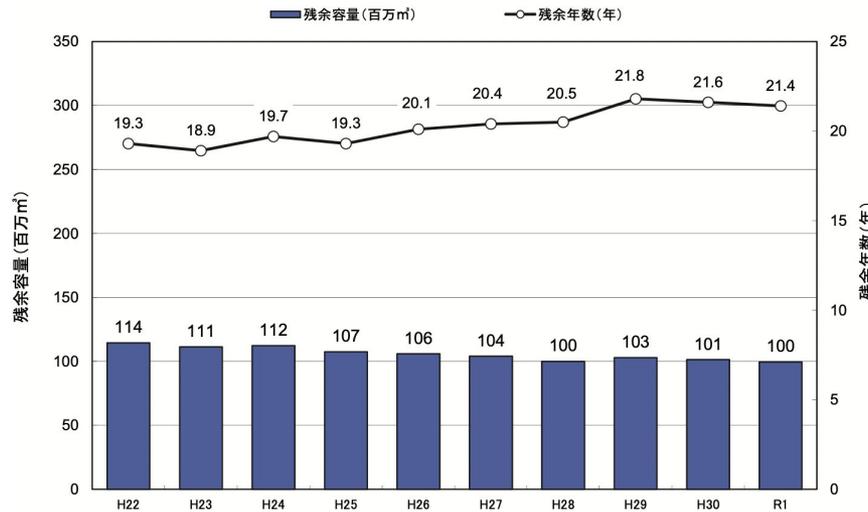


図-1-7 一般廃棄物最終処分場の残余容量と残余年数の推移

出典:環境省

■ 食糧不足により飢えに苦しむ人の増加



出典:国連WFP

危機状況を深く広く知らしめ、循環バランスの実行で解決に向かう

■ 歴史の中に探る解決方法

- 日本の和のサステナビリティである伊勢神宮の式年遷宮に見られる「常若(とこわか)」の思想から学び、拡大→常に新しく本質を伝承していく。
- 企業は、働く者に教育で知らしめ、行動を促すことによって、メリットが得られる。例えば、健康・良い精神状態・幸福な環境・やりがいのある仕事・暮らしの向上が叶う仕事を提供する。
- SDGsに示される地球全体の循環コントロールを実現するために、その実行プロセスは生活の場の地域社会から必要である。つまり、地産地消の考え方である。(江戸時代「三里四方」:半径12km範囲でまかなう)

■ 式年遷宮の常若(とこわか)思想

常に新しい神殿で神様をお迎えする造営から、古くなったものを作り替えて常に若々しくして永遠を保つという発想。



画像:伊勢神宮(上棟祭の様子)

■ 循環経済は地域社会での地産地消



出典:環境省ホームページより

「ウェルビーイング」の実現

■ 心身ともに健康な環境の持続

- **人が行動したくなる目標を共有**するために、「吾唯足知」に表れる**経済成長の啓蒙**が必要であり、これが現代版「不易流行」(温故知新)となる。
- 理想の循環する社会をイメージ出来るように、過去の歴史の中で、**モデルとなる時代** または**他国の例**を、今を生きる人に**当てはめて、見える化**する。
- 自社内で、日常の仕事が働きがいに繋がり、**経済成長の達成が未来の幸福実現に成る行動**をする。

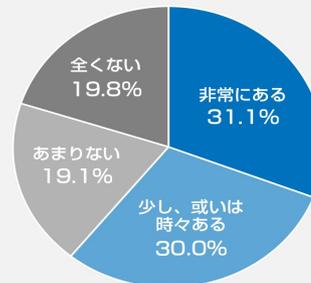
■ 知足の経済成長



出典:写真AC

■ 働きがいの理解と、循環経済成長の追求(人)

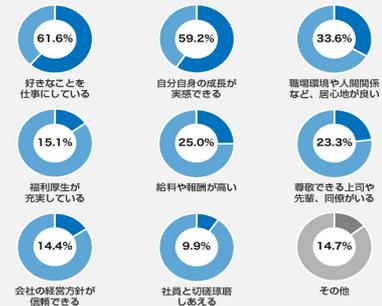
Q 現在従事している仕事に働きがいがあると思いますか？



調査期間：2019年10月9日～10月29日 調査対象：464人

出典:AMPのアンケート結果より

働きがいが「非常にある」、「少し、或いは時々ある」と答えた回答者がどのような点で仕事に働きがいを感じているか (複数回答)



調査期間：2020年10月1日～11月2日 調査対象：292人

目標の共有によって輝ける未来が具体的に実現する

■ 循環型社会の今昔 江戸時代のリサイクルは世界一だった

フランスでは19世紀になっても糞尿をセーヌ川に垂れ流していました。しかし日本は、江戸時代にはすでに循環型社会を完成させており、糞尿を肥料として再利用し、街に汚物を垂れ流すようなことはしていませんでした。「リサイクル」という言葉は昭和になってから使われ始めた言葉ですが、日本では昔から循環型社会を構築していたのです。もちろん、昔と今では異なる部分もたくさんあります。

参照:COMPASS 親子の老後の道しるべ

■ 伊勢神宮の式年遷宮「常若」から学ぶ `和のサステナビリティ

伊勢神宮の在り方と式年遷宮を分析することで、持続可能な仕組み作りへ、以下に示したような興味深い示唆を複数得た。永遠を目指すために堅牢な建物を石で `造るので `はなく、式年遷宮では素木と萱の神殿を定期的に建てかえて永遠に清々しさを保っている。この「常若」という智慧 からは、西洋合理主義的な現在の常識にとらわれず、古今東西の伝統から学ぶことの重要性が見えてくる。

1. 組織が `社会と軸を一つにする価値を提示する
2. その価値に共鳴する担い手をつくる
3. その価値を継続的に社会に発信し続ける
4. 拡大で `はなく継続を目指す
5. 変えてはいけない本質とそれを守るために時代に
応じ `て変えるべきことを明確に分ける
6. やたらに時代にあった合理的な理由を考えず、実
行する
7. ステークホルダーを平等に扱う

参照:大和総研 伊勢神宮の式年遷宮「常若」から学ぶ `和のサステナビリティ、伊勢神宮 神宮司庁加筆

■ 「吾唯足知」に表れる経済成長の啓蒙が必要であり、これが現代版「不易流行」(温故知新)となる

貝原益軒が「養生訓」を世に出す三年前に「楽訓」という書物を著し、その中で真の楽しみとは何かを説いています。一部を紹介しますと「わが身の足る事をしりて、分をやすんずる人まれなり。これ分外(ぶんがい)をねがふによりて楽(たのしみ)を失へり。知足の理(ことわり)をよく思ひてつねに忘るべからず。足る事をしれば貧賤にしても楽しむ。足る事をしらざれば富貴をきはむれども、猶(なお)あきたらずして樂まず。」。

本論と離れますが、**益軒の真の楽しみは、物質的なものでなく精神的なもの**だと言っており**「楽は内にあり」と述べており、富の豊かな人よりも貧しき人が得やすい**とも述べています。益軒は知足という道理を忘れないように力説しています。この知足は、京都の竜安寺にある蹲踞(つくばい)に認められます。この手水鉢は、水戸黄門こと徳川光圀が寄進したものとわれ、そこには「吾唯足知」(ワレ タダ タルヲ シル)と書かれています。禅の精神、**知足のものは貧しいといえども富めり、不知足のものは富めりといえども貧しい**を伝えています。

知足という思想は、「老子」三十三章「**足るを知るものは富む**」に認められます。さらに、お釈迦さまが臨終の際の最後の説法である『**仏遺教経**』に「**少欲知足**」(欲を少なくして足ることを知るという言葉も認めます。**茶道の理念に、知足安分(ちそくあんぶん)**という考えがあり、**足ることを知って分を安んずる精神の必要性**が唱えられています。

この知足は、単に「あるものでがまんする」など禁欲や節約精神を言っているのではありません。私は、今のある物の中に喜びや幸福を積極的に見いだすことだと思えます。人は、昔からややもすれば欲が深く、人を妬み、モノを沢山ほしがり、次第に心が貧しくなり、その結果として不幸を背負うことになるのです。モノが豊かであればあるほど、知足の心を持つことが難しくなると古から言われ続けているのです。

■ 働き方の現状を知り、環境を変えるため私たちにもできること

〈ディーセントワーク 8つのチェック項目〉

1. 安定して働く機会がある。
2. 収入は十分(生活し、今後に備えて貯蓄ができる賃金)である。
3. 仕事とプライベート(家庭生活)のバランスが取れている(長時間労働に苦しんでいない)。
4. 雇用保険、医療・年金制度に加入している。
5. 仕事で性別(女性だから、男性だから)、性自認(LGBT)による不当な扱いを感じることはない。
6. 仕事で身体的、精神的危険を感じることはない。
7. 働く人の権利が保障されていて、職場での相談先がある。
8. 自己の成長、働きがいを感じる事ができる。

参照: 日本労働組合総連合会ホームページ

■ 目標達成への役割が求められる一方、ビジネス機会でもあるSDGs

SDGs関連のビジネスモデルは最大で**年間12兆ドル相当の経済的機会**を提供し、2030年までに最大**3億8000万人の雇用増加**に繋がるとされています。当初は企業のCSR活動の一環として触れられることの多かったSDGsも、その認知と理解が深まり、現在では**利益を創出することが可能な「ビジネス機会」と捉える企業が増え**ていて、「**サステナビリティ**」を**ビジネスの観点から推進するトレンドが加速**しています。また、スタートアップは社会的課題の解決をそもそもの設立目的とするものも多く、そうした社会的意義を掲げるイノベーターとのコラボレーションは、今後の企業の発展と社会的価値の向上に欠かせない要素になると言えるでしょう。

参照: ビジネスと持続可能な開発委員会 (Business & Sustainable Development Commission)

■ 参照・引用資料

- ecotopia,「【かなりヤバイ！】最終処分場が限界で、ゴミを捨てられなくなる！」,2018年10月24日<https://ecotopia.earth/article-134>
- 国連広報センター,「ディセントワークと経済成長を両立させることは何故大切か」,2019年3月https://www.unic.or.jp/files/08_Rev1.pdf
- 国連WFP,「ハンガーマップ2021」,2021年10月4日,
https://docs.wfp.org/api/documents/WFP-0000133672/download/?_ga=2.181471463.196779953.1640613998-247726341.1640314210
- AEON RETAIL,「ゼロ・ウェイスト(ゴミを出さない)新しいライフスタイル体験を」<https://www.aeonretail.jp/campaign/loop/>
- SDGs SCRUM,「行動の10年、これからSDGsに取り組む企業に必要なのは「ムーンショット」の構想」,2021年7月20日 <https://sdgs-scrum.jp/column/2037/>
- 大和総研,「伊勢神宮の式年遷宮「常若」から学ぶ「和のサステナビリティ」」,2016年4月6日https://www.dir.co.jp/report/column/20160406_010798.html
- COMPASS,「循環型社会(リサイクル)の今と昔を比較しよう」,2018年7月17日<https://web-compass.net/imamukashi/circulation/>
- Local.Biz,「日本の描く2030年のありたい姿「地域循環共生圏」と「SDGs」実現に向けたロードマップ」,2020年4月16日<https://local-biz.jp/news/442/>
- VISIONS,「長経営をするために知っておきたい、「不易流行」の考え方やその大切さ」,2021年8月16日<https://prdx.co.jp/visions-prdx/fueki-ryuk/>
- AMP,「働きがいも経済成長も」アンケート実施「好きな仕事」・「成長を感じる」で働きがいをより,2020年11月15日<https://ampmedia.jp/2020/11/15/amp-sdgs/>
- 一般社団法人SDGsアントレプレナーズ,「『よりよきビジネスよりよき世界(Better Business, Better World)』ビジネスと持続可能な開発委員会(Business & Sustainable Development Commission)」,2020年2月17日
<https://sdgsjapan.com/better-business-better-world>
- 日本労働組合総連合会ホームページ<https://www.ituc-rengo.or.jp>

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失、利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は小川電機株式会社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。